

## 令和5年度保育所自己評価

令和5年3月31日  
社会福祉法人さいわい福祉会  
野ばら保育園  
野ばら第二保育園  
野ばらユリックス分園

### 1. コロナ5類と保育

コロナ感染予防の為、色々な配慮をするようになり四年目を迎えたR5年度。感染状況としては、保護者の感染があり、それに伴う子どもの欠席が多かった。職員や家族のコロナ感染もあり、職員の配置が難しい時期があった。みんなの協力体制のおかげで乗り切ることが出来た。

年度途中より国の対応策が変わり、自宅待機の日数が短くなったり、国からの抗原検査キット配布により、早目の復帰が出来るようになる。これらの動きを見ながら感染防止対策は気を緩めずに常に子ども達、職員の体調には充分気を付け、気になる症状があった時は早目に休むなどして防いでいった。又、5月以降、マスク着用や密の緩和が戻ってくると他の感染症（インフルエンザ、RSウイルス等）が流行し、その対策にも注意しながらすすめていった。

コロナ禍であっても日常の保育の質は落とさず、行事の期待感、意欲、楽しみは大事にし、日常の保育がより充実出来るように推進した。

結果、行事の見直し（簡素化）をして、日常の保育のより充実化を図るきっかけとなった。

#### ①行事について

- ・入園式… 昨年は時間短縮・人数制限の中で実施していたが、新入園児及びその保護者2名、  
以上児園児全員出席と緩和していく
- ・秋まつり（夏から秋に変更）…昨年同様平日に実施 全園児参加（保護者参加なし）  
内容）おみこしまわり、盆踊り、お店屋さんごっこなどを全園児で行い、  
夕方は親子ヨーヨー大会を実施  
年長・年中児は翌日の土曜日 保護者参加で実施  
内容）おみこしまわり、竹太鼓演奏、親子盆踊り  
※参観及び親子のふれあいもあり良い思い出となったようだ。
- ・運動会… 以上児、未満児に分かれて行う。  
昨年同様、未満児は平日夕方のお迎え時の時間を利用して、日頃の運動遊びを親子一緒に取り組んだり、各年齢に合わせた運動遊びやわらべうたをしたりする。  
以上児は午前中実施 保護者：年長2名・年中2名・昨年は1名だった年少は2名参加で  
日頃の運動遊びを参観してもらい、子ども達の発達を見てもらった。
- ・のばらっこ会（発表会）…以上児、未満児に分かれて行う。  
昨年同様、未満児はクラス別に夕方40分～60分程度実施。1・2歳児は劇遊びごっこを行ったりする。又、1日の「生活と遊び」をビデオで見てもらう。保育参観ができなかつたが、園での様子が見られ、親の理解にもつながり、とてもよかったですと感想がよせられた。  
各クラス小単位で実施したので、親近感、充実感があった。（保護者1名参加）  
以上児は合同で発表。（保護者：年長2名、年中2名（昨年は1名）・年少1名参加）  
他クラスの様子や、他年齢の様子が見られ、感動したとの声が聞かれた。
- ・卒園式… 年長児・年中児参加 卒園児保護者2名出席  
年中児が送る代表として出席でき、式の雰囲気が良くなり次年度にもつながった。
- ・保育参観…体育教室（3・4・5歳児）・絵画造形教室（4・5歳児）・もじ遊び活動（5歳児）の参観日を  
実施した。活動の様子が見られ保護者の理解にもつながった。  
未満児クラス懇談会・以上児クラス懇談会  
育児講演会 野ばら「子どもの育ちに大切なこと～子どもをとりまくメディアの影響～」講師：佐伯美保氏  
第二「心が風邪をひく時～安心感と自立～」講師：吉村春生氏
- ・ノーテレビデー…（4年ぶりに再開）  
毎月1回、各園児好きな絵本を借りて、家庭で「テレビを見ない日」を実施していただく。  
「子どもとのふれあいや会話が増えた」の声を聞かれ、良い取り組みとなっている。

## 配慮点・工夫

- ①行事については、子ども主体に工夫し、日頃の保育を行事に取り入れ、例年通りに実施した。
- ②保護者参加については、昨年より緩和しながらも（参加者の人数、実施時間、会場の使い方等）を検討していった。
- ③実施当日の配慮…問診票の記録・検温・マスク着用・手指の消毒等、昨年同様に気を付けていった。

## ②日常保育についての配慮

- ・換気、オゾン機、殺菌消毒、手指の洗い、備品・玩具の消毒
- ・年長児の午睡はホールを使用
- ・感染にかかった園児はマスク着用のすすめ
- ・室内の換気を意識していく
- ・感染状況を毎日掲示して知らせる（状況によってはコドモンで配信）
- ・発熱時の対応…37.5°C以上の発熱後は、解熱後12時間経過し、感染症の種類によっては医師記入の意見書もしくは保護者記入の登園届を持って登園してもらう。

## ③評価反省

- イ) 各行事の実施後、保護者から出た感想集を渡し、新しい行事の在り方の共有を図った。
- ロ) 各行事毎、感染防止に注意・配慮をして例年通り実施し、行事における園児の成長、喜びが見え、保護者と共に喜び合えた。
- ハ) コロナ5類になり緩和されたが、これを機に行事のあり方を見直しながら実施。その結果、保育者に時間的余裕が出て、日々の生活や遊び、活動をより充実することが出来た。  
又、保育者の働きやすさや定着につながり、求人活動にも良い影響が出てきた。
- 二) 3歳未満児クラスは、クラス毎小単位で発達に合わせて行事内容の工夫をした。クラス懇談も実施し、ビデオで日頃の様子を見てもらい交流を図った。大変好評だった。

## 2. 保育の質の向上（研修）

コロナ5類になったが、リモート研修に切り替えることが多く、見逃し配信で1ヶ月程期間があるので、（土曜日や平日の空き時間を利用して参加）同じテーマでみんなで視聴でき、パートの先生も含め、保育の学びについて共有することができた。又、研修報告会でお互いの学びの紙上研修をし、保育の共有化でき、保育の質の向上につながっていった。

- ①公開保育…野ばらと第二の未満児及びユリックス分園、三園の合同公開研修を実施。  
(年2回) 前半での助言や課題を後半に公開保育を取り組むことにより、意識して保育を高めることにつなげていった。久しぶりに以上児も両園1回実施でき、環境づくり、子どもへの関わり等、お互い見合ったり意見交換が出来てよかったです。

- ②重点課題の討議…職員会議に重点課題コーナーを設け、発表し合うことによって、更に保育の視野と深みをつけ、ミッションを高め合うことが出来た。

### ③リモート研修内容（全職員）

- 1.子どもの育ちに大切なこと～脳科学が教える生活・メディア・学習・親子関係～  
(東北大加齢医学研究所教授 川島隆太先生)

- 2.不適切な保育とはどのようなことか～保育の専門職として関わりと環境を見直す～  
(東洋大学教授 高山静子先生)

- 3.乳児保育～一人ひとりが大切に育てられるために～  
(やまぼうし保育園 元園長 吉本和子先生)

- 4.家庭に絵本を届けるために～保育者だからできること～  
(待ちよみ絵本講師 内田早苗先生)

- 5.子どもの遊びと生活を支えるおもちゃ・環境～保育者の願い・関心・知識・応答～  
(札幌国際大学非常勤講師 藤田春義先生)

- 6.子ども・保育者・組織が共に育つために～保育の質が高まる環境と関わり～  
(国立市幼児教育センター所長 細田直哉先生)

- 7.げんき200号記念セミナー 絵本で深まる園と家庭のパートナーシップ  
(BRILLIANT FUTURE 代表講師 上杉千恵子先生)

#### ④キャリアアップ研修

野ばら：乳児保育 5名 幼児教育 1名 保護者支援 2名 保健衛生・安全対策 1名

第二：乳児保育 2名 幼児教育 3名 保護者支援 2名 障害児研修 1名

#### ⑤講師による園内研修（保育実践研修）

- ・ 広渡先生…わらべうた指導（全園児対象）
- ・ 金子先生…絵画造形指導（4・5歳児対象）
- ・ 居関先生…安田式体育あそび指導（全園児対象）
- ・ 竹村先生…運動あそび（3・4・5歳児対象）
- ・ 秋山先生…リズム運動（全園児対象）
- ・ 川下先生…もじ遊び指導（年長児対象）
- ・ 立川先生…考える力を育む活動（年長児対象）
- ・ 鴨下先生…支援児対象 保育所訪問（リハビリ発達支援ルームかもん）の鴨下先生による個人的指導は、かなり効果があり職員の学びにもつながった。

### 3. 園開放事業（すくすく野ばら会）…令和4年度から実施。

・ 地域の親子に園を開放して交流を図る。戸外遊び、室内遊び、わらべうた、育児相談、園内見学

・ 野ばら、第二：2ヶ月に1回 ユリックス分園：月2回実施。定員 10組

※毎回定員いっぱいになり、園見学される方も多いかった。

### 4. 人材確保

- ①副主任を迎えることができ、以上児保育の充実、園全体の研修推進を図ることができた。（野ばら）
- ②短時間保育士を追加採用ができ、待機児童の受け入れや、支援児の充実を図ることができた。
- ③待遇改善…4月に遡り職員へ支給、給与アップにつながった。
- ④チーム加算…全職員へ配分でき、年度末賞与として3月に渡すことができた。
- ⑤市の保育フェアで、保育園・子ども園18園が出展し保育士採用につながった。

### 5. ユリックス分園の保育推進

- ①月1回、市の文化スポーツ課及びユリックス職員と連携会議を開く（二園の園長・分園主任参加）  
お互いの事業の確認・連絡・連携を図ることができ、共有でき、つつがなく進めることができた。
- ②保育園の存在がユリックスにとって良い存在になるように心掛けた。  
(笑顔で挨拶、七夕飾り、館内おみこしまわり、クリスマスツリー飾り園児共同参加、ミニ門松飾り、春の花、館内散歩など)
- ③保育内容としては、責任者を中心に充実した環境作りと保育の内容を心掛け、園児はのびのび成長できた。
- ④園庭、ユリックス公園利用に気を付けた。特に事故がないように重々注意して保育した。
- ⑤ミニプレーパーク（地域開放事業）を園庭、古墳公園や室内で実施。

### 6. ICTの導入

- ①初步段階の取り組みとして、保護者の登降園の打刻とメールでの出欠連絡、緊急一斉メール配信等を実施する。
- ②病気感染関係、他、緊急メールを流すと、保護者はしっかり受け止め、連携が図られ効果的だった。
- ③ICT活用研修等を受講した。今後良い形で業務省略となり職員等の余裕につながるよう推進していきたい。
- ④以上児クラスは日々の活動（ドキュメント）を家庭に毎日発信（未満児クラスは週1回）し、より連携が図られ好評。又、保育の見える化にもつながり、わかりやすくなつた。今後は、日誌にも連動でき、業務省略につながるように検討中。

### 7. 安全について

- ①ICTの導入により、毎日の園児の出欠の確認がより確実となった。欠席の理由等を把握し、園児が安全安心に日々過ごせるように配慮・確認をしていった。連絡がない場合は保育園から保護者へ連絡して安全確認を確立化していっている。
- ②園庭、園周辺の整備・安全確認・防犯カメラの増設…今後、もっと検討・充実させる。
- ③保育室及び園内フリースペースの安全確認  
安全チェックリストの活用 各職員、毎年、安全保育のチェックをする。  
野ばらが抜打ち監査だった為、この機会に書類、資料を見直し整えていった。全員周知して共有化していく。安全計画・事業継続計画を新たに作成。事務室の見える場所、及び、必要なものは各クラスに置き、いつでも手に取れ、見れるようにしている。

## 8. 設備・建物の増改築

- ①ユリックス分園にウインドウフィルムを設置。(園児の顔が特定できないように配慮)
- ②野ばら第二保育園の増改築
  - イ) 医務室の改築(保育中の急病児の一時預かりが安心・安全になった)
  - ロ) 職員ミーティングルームの増築(職員同士の意思疎通、連絡、連携がより良くなった)
  - ハ) ホール前にアトリエルームを増築し、園児の作品及び、園生活の見える化を図る。
- 二) 床の工事、張り替え(れんげ・つくしのへや)

## 9. 不適切な保育について学ぶ

今年度もテレビのニュースで連日不適切な保育があったことが大きく報じられる。

- ・当園では開園より丁寧な育児を合言葉に実施しており、子どもとの関わり方は「愛情をもって保育にあたり、肯定的な言葉かけを行っている」が、不適切な保育のことを他人事とはとらえず、大切な子どもの心の発達と命を預かっている事を心に刻んで保育する。全職員に周知を図る。
- ・又、毎年、人権セルフチェックリストを活用し、各職員自分の保育の振り返りを行っているが、今年度から年2回(8月・2月)取り組んで、子ども達一人ひとりを尊重して関わっていっている。
- ・チームとしてお互いに注意し合い(園・個人)質を高めながらより良く機能させる。
- ・風通しの良い職場作り。積極的にコミュニケーションを図る。情報共有をする。働きやすい、働きがいのある職場にする。職員の心身の健康をどのように保っていくか具体的な取り組みを考えてみる。(まず出来ることかやってみる!) クラス会議・リーダー会議の議題項目に「風通しのよいクラス作り」を入れ、振り返りや討議をする。
- ・どういうことが不適切にあたるのか具体的に洗い出し、不適切な対応があった時の対応のルールを決め、共通理解して、お互いに注意し合う。
- ・苦情解決をしっかり機能させる。意見箱、日々送迎時、月の便り欄、事務室に「何でも相談室」を設けている。
- ・「子どもの最善の利益」を守るために…保育士会倫理綱領をよく読み取る。年度始めに読み合わせをした。
- ・朝日新聞3月4日(月)掲載の「睡眠時の保育事故を防ぐには」「給食・心の傷にしないため」の記事を読んでレポート提出。回覧して共有していく。

### 保育士会倫理綱領

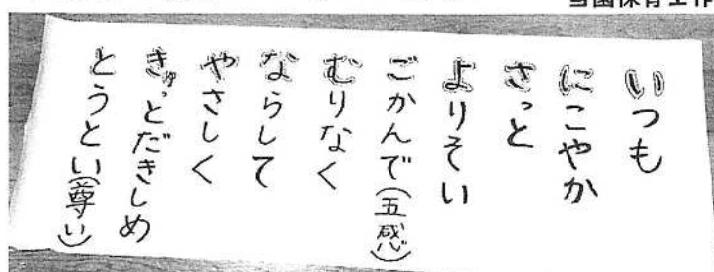
すべての子どもは豊かで愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは子どもが現在を幸せに生活し、未来を生きる力を育てる。保育士の仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

- ・私たちは子どもの育ちを支えます。
- ・私たちは保護者の子育てを支えます。
- ・私たちは子どもと子育てにやさしい社会をつくります。

初心に戻り、これをしっかりと心にとめて保育しよう!

## 不適切な保育にならないように… 当園保育士作



このような気持ちをいつも忘れずに  
子ども達に向き合い 丁寧に関わっていきましょう  
(理事長)

### わらべうた “いものにたの”で唄う

The musical notation consists of three staves of notes. The lyrics correspond to the notes:

い ら め に た の サ ん エ の し オ や す  
ご び ラ ウ ロ し た の な る は な は く さ イ  
セ オ フ リ モ ジ リ ナ オ ナ オ ナ オ ナ オ ナ オ

# 令和5年度 保育園自己評価

令和6年4月

社会福祉法人さいわい福祉会  
野ばら保育園・野ばら第二保育園

[評価分類] I-4 保育内容(続き)			自己評価結果	強み・弱み
I-4-(22) 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	c   b   a	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育については39年前より左記の事について研究実践し、二園の園内公開保育をして客観的見方も取入れ、学習をすすめている。(園長・主任・保育士参加)</li> <li>・担当制の保育の研究を34年前より取入れ、全国保育士会事例集に「乳児保育」の部に掲載、母子(及び保育士と子ども)の愛着関係、信頼関係から始まる乳児保育をすすめている。</li> <li>・毎年継続して、担当制によるお世話や遊びなどを学び、三園内の公開保育では客観視も加えて、分析、評価、課題など確認し合って次に生かしている。</li> </ul>	
ア) 授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしなが らゆったりと飲ませている。 イ) 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。 ウ) おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。 エ) 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。 オ) 外気_ADDRESSに触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。 カ) 哺語には、ゆったりとやさしく応えている。 キ) 頭を靠合ってあやしたり、乳児とのやりとりで触れ合い遊びを行っている。 ク) たて抱き、腹透いなど、子どもの姿勢を変えている。 ケ) 軽返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。 コ) 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>			
I-4-(23) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	c   b   a	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間保育は、物的・人的環境共、充分な保育が行なわれていると共に家庭的雰囲気の中で安心して過ごしている。保護者もむやみな預けがなく、必要な時間の保育を利用して親子関係もよい。延長保育士は、紙芝居、わらべうた等を毎日実施し、子ども達も異年齢で楽しんでいる。</li> <li>※わらべうた指導者の広渡先生に月1回、各クラスに入っていたとき、実践指導を受け、クラスに生かしている。この取り組み(わらべうた)を後世に残す為、記録を残している。</li> </ul>	
ア) 家庭的な雰囲気が感じられる。 イ) 好きなことをしていくつろげる空間や遊具がある。 ウ) 長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている。 エ) 一人一人の子どもの要求に応えて、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。 オ) 異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。 カ) 子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうた学習の指導がある日は、延長担当の先生に受けてしまう。</li> </ul>	
I-4-(24) 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	c   b   a	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ精神を常に頭に入れ、保護者との細やかな対応、交換、職員間の連携、研修等実施。専門カウンセラーに来園して頂いて実践指導と方向づけをしてもらっている。園舎内のバリアフリーは、発達を考えて意識的に段差をつけている所もある。</li> </ul>	
ア) 障害のない子どもの、障害児への関わりに対して配慮している。 イ) 園舎はバリアフリーの配慮がみられる。 ウ) 障害児の特性に合わせた園での生活の仕方の計画が立てられている。 エ) 障害児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている。 オ) 障害児保育に携わる者は、障害児保育に関する研修を受けている。 カ) 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。 キ) 保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>			
II. 子育て支援			自己評価結果	強み・弱み
[評価分類] II-1 入所児童の保護者の育児支援]				
II-1-(1) 一人一人の保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などをしている。	c   b   a	強み	<p>個人懇談を年1回、全員に実施、個人的意見交換をしている。他に日々送迎時、又は連絡帳にて情報交換、育児日誌としての役割も兼ねている。個人的に心配事、悩み事は隨時受け付け、傾聴及び説明・連携をとっている。発達・育児の共通理解は、クラス懇談(年1回)・育児講演会・保育参観(体育・絵画、もし、わらべうたなど)園だより・クラスだよりの子育てメッセージ・育児本の紹介など。懇談会では、ビデオにて保育園の日常生活を見て意見交換している。虐待では、早期発見・連絡に心掛け、全員理解の為の研修を受講。</p>	
II-1-(2) 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	c   a	弱み	<p>保護者の個人的な悩みは何件か出ているが、真摯に受け止め、職員同士前向きに考え合っている。内容によっては園長・主任も同席する。</p>	
II-1-(3) 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るために機会を設けている。	c   b   a	強み・弱み		
II-1-(4) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。	c   b   a	強み	<p>市・地域の子育て情報のキャッチを行ない、運営に反映している。</p>	
II-1-(5) 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	c   a	弱み		
[評価分類] II-2 多様な子育てニーズへの対応]			自己評価結果	
II-2-(6) 多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映している。	c   b   a	強み・弱み		
[評価分類] II-3 地域の子育て支援]			自己評価結果	
II-3-(7) 育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	c   b   a	強み	<p>ポスター・掲示板・その他の相談等。月2回定期的に園を開設、相談事業や子育てニュース発行、わらべうた講座実施。園開放(すぐすぐのばら会)実施。気軽に声掛けができる雰囲気に心掛け、気持ちよく相談に応じる。実際に親子でクラスに入っての体験保育が好評で継続している。</p>	
ア) 電話やファックスなどによる子育て相談を行っている。 イ) 来園による子育て相談を行っている。 ウ) 育児情報の提供を行っている。 エ) 地域の子育て家庭の親子が定期的に集まる懇談会を設けている。 オ) 地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。 カ) 地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	弱み	<p>情報発信の仕方を更に研究(日頃取り組んでいる子育てメッセージ、行事について、子育て研修報告など)地域母子保健活動と密に連携を深める。(地域保健師・家庭相談室)</p>	
II-3-(8) 一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	c   b   a	実施中	<p>H16年4月より実施(野ばら)H24年4月野ばら第二保育園実施。地域の子育て実態の把握、子どもの最善の利益につながる支援・親の支援に向けて実施中</p>	
ア) 一時保育のための保育室などの確保に配慮している。 イ) 一時保育のための担当者が決められている。 ウ) 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。 エ) 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている。 オ) 一時保育の子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	弱み	<p>保育士不足やコロナの関係で、ここ4年取組みが出来づらくなっていたが、令和5年度は、かなり取り組むことができた。</p>	
III. 地域の住民や関係機関・団体との連携			自己評価結果	強み・弱み
[評価分類] III-1 地域の住民や関係機関・団体との連携]				
III-1-(1) 保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。	c   b   a	強み・弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市広報・子育て情報の発信とキャッチ。</li> <li>子どもの健康状況の連携は、嘱託医や医師会との相談・研修・情報交換の体制をとっている。</li> <li>・日の里まつり、自由ヶ丘文化まつりに参加し、園児の姿を見ていただき、祭りの盛り上がりにも一役かかっていて地域の人からも好評。</li> <li>・健康については歯や心身の健康等、嘱託医と連携をとっている。</li> </ul>	
III-1-(2) 子どもの健診状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。	c   a			

[評価分類III-1 地域の住民や関係機関・団体との連携] (続き) 自己評価結果		強み・弱み
III-1-(3) 施設相談などに際して、児童相談所など専門機関に相談や連携ができる体制になっている。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気になることは市子ども育成課や家庭相談センター、児童相談所に相談・連携している。</li> <li>支援発達ルーム(かもん)より園に訪問して頂き、直接支援員及び担任に指導して頂き効果があった。</li> <li>発達支援センターと連携して、年2~3回、巡回相談として気になる子を実際観察していただき、討議検討・指導していく。(巡回相談)</li> <li>小学校との連携、幼保小代表者連携会議、小学校訪問、運動会、卒園児のつどい等、交流</li> <li>近隣の方が高齢で交流が出来づらくなってきた。近所の方には、盆・正月に挨拶に行った時、子どもの声で元気が出るという有難い言葉を頂く。困られた時はいつでも声をかけて頂くよう話している。保育園で出来ることは動きたい。</li> </ul> <p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来園の時は積極的に受け入れているが、民生児童委員等地域団体と話合いがなかなか出来ない。</li> </ul>
III-1-(4) 小学校との間で、小学生と児童が互いに行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの機会がある。	c   b   (a)	
III-1-(5) 民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	c   (a)	
III-1-(6) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	c   (a)	
III-1-(7) 中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	c   b   (a)	
[評価分類III-2 実習・ボランティア]		自己評価結果
III-2-(8) 実習生を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習生の積極的受入れ、実習内容の充実、職員との反省会をして内容強化を図っている。</li> <li>ボランティア受け入れは、福教大生が行事や園開放の日などに実践して、全職員に意義の周知をして、お互い有意義な関係になっている。</li> </ul>
III-2-(9) ボランティアを受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	c   b   (a)	
IV. 運営管理		担当者：主任保育士
[評価分類IV-1 基本方針]		自己評価結果
V-1-(1) 保育所の保育理念及び基本方針が明文化されている。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年、年度の始めには全職員で理念の理解・基本方針と現場保育の照らし合わせ、確認の討議をして検討を行なって惰性にならないように心掛けている。そして、常に前向きで鮮度がある保育を目指したい。</li> </ul>
IV-1-(2) 保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取り組みを行っている。	c   b   (a)	
[評価分類IV-2 組織運営]		自己評価結果
IV-2-(3) 保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、クラス会議・リーダー給食会議・運営会議を行ない、職員会議で充実を図っている。又、園内研修、職員会議では、各行事の意義、子どもの発達・成長と直結するように考え、子ども一人一人がキャラクタ輝き、友達と手をつなぎ合えるような取組みを考える。安田式体育・秋山リズム運動を実践研修。</li> <li>職員会議では、重点課題研究として(エピソード・子どもづくやさ、実践研修を報告せしめ共通理解・一年間の保育の振り返り等)すすめている。コロナ禍の中、リモート研修に切り替え、それはそれなりの効果があった。(保育所自己評価)</li> </ul>
IV-2-(4) 保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。	c   b   (a)	
IV-2-(5) 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	c   b   (a)	
[評価分類IV-3 守秘義務の遵守]		自己評価結果
IV-3-(6) 守秘義務の遵守を周知している。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度始めの職員会議で読み合わせ、再確認している。又、意見交換して深めている。パート職員も理解する為に回観で周知する。</li> </ul>
[評価分類IV-4 情報提供・保護者の意見の反映]		自己評価結果
IV-4-(7) 情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園だより・クラスだよりは、連絡、報告に終わらず内容が充実するように工夫(保健だより、子育てメッセージ、誕生児コメント、子育てアラカルト、クラスの具体的な出来事、保護者よりの通信コーナー等)</li> <li>園開放日ボスター(すくすく野ばら)の工夫・見学者に内容がわかる冊子づくり・保育の見学・就職フェアの時に園紹介ポスターやわかりやすい冊子の配布</li> <li>年度始めの児童票・行事後のアンケート・個人懇談会で把握。意見箱の設置。送迎時に意見・相談がある。苦情はその都度、対応及び園だよりや書面にて公開。まとめは年度末に書面にて公開。</li> <li>ホームページに運営状況公開</li> </ul>
IV-4-(8) 保護の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	c   b   (a)	<p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページののばらっこニュースを充実させること(その時にあった特徴的なニュース)</li> </ul>
[評価分類IV-5 安全・衛生管理]		自己評価結果
IV-5-(9) 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	c   b   (a)	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度始めの児童票・行事後のアンケート・個人懇談会で把握。意見箱の設置。送迎時に意見・相談がある。苦情はその都度、対応及び園だよりや書面にて公開。まとめは年度末に書面にて公開。(保育所自己評価)</li> <li>危機管理マニュアル・防災マニュアルを作り、会議及び訓練をして大人も子どもも慣れ、習慣づくようにしている。</li> <li>毎月、事故及び衛生感染の「ヒヤリハット」を各クラスから出して、職員会議で確認し全職員周知をして事故防止に備えている。又、園全体の要注意マップを作成して全職員が把握する。避難訓練・災害訓練毎月実施。</li> <li>水周りの衛生管理は、感染症予防マニュアルに沿って予防している。せっけん・消毒を各所に常備し、衛生管理を徹底している。</li> <li>コロナウイルス感染防止の為、マスク・手洗い・殺菌剤・オゾン空気清浄機などを整備し、あらゆる感染防止に心掛けた。</li> <li>又、日々の健康観察チェック・外部者のチェックも個人対応し、防止に心掛けた。</li> </ul>
IV-5-(10) 事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	c   b   (a)	
IV-5-(11) 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	c   b   (a)	<p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全マニュアル等、完備して、一応全員目を通しているが、今後、しっかり身に着くまで討議、検討して全員周知、実践できるよう園内研修をすすめていく。</li> </ul>